授業科目	構音障害Ⅲ（器質性）				
担 当 者	藤原百合				
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学　　年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択･必修	必修

■ 授業目的・内容

器質性構音障害（口蓋裂）について、基礎的知識、口蓋裂に伴う様々な問題や、チームアプローチについて学ぶ。鼻咽腔閉鎖機能検査や構音検査の実施、治療計画の立て方や構音訓練法について学ぶ。

■ 到 達 目 標

・口蓋裂に伴う障害の概要を説明できる。
・鼻咽腔閉鎖機能や構音の評価方法を理解し、模擬的に実施できる。
・評価に基づいて治療計画を立案し、説明することができる。
・特異な構音障害に対する訓練方法を理解し、模擬的に実施できる。

■ 授 業 計 画

第１回　器質性構音障害の定義・分類
第２回　口蓋裂に関する基礎的知識、関連障害
第３回　口蓋裂に伴う発話障害の特徴
第４回　発話の聴覚的評価（演習）
第５回　口腔顔面の形態・機能の評価
第６回　機器を用いた評価（鼻咽腔閉鎖機能、構音機能）
第７回　器質的異常に対する外科的、歯科補綴的治療
第８回　口蓋裂に対する言語治療：機能訓練
第９回　口蓋裂に対する言語治療：構音訓練
第10回　構音訓練（演習）
第11回　口蓋裂に伴うその他の問題（哺乳・離乳、発達、歯列・咬合、聴力、心理社会的問題）
第12回　チーム医療、経年的対応の変化
第13回　症例検討：年齢別の対応
第14回　症例検討：聴覚的評価から治療方針を考える
第15回　まとめ（国家試験過去問）

■ 評 価 方 法

筆記試験　90%　　演習　10%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

前もって講義資料を配布しますので、教科書の該当箇所を予習、復習してください

■ 教　科　書

書　名：標準言語聴覚障害学　発声発語障害学　第３版
著者名：藤田郁代監修　城本修　原由紀編集
出版社：医学書院

■ 参 考 図 書

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。